

## 医学研究センター

## 医学研究センター

片桐 岳信  
(センター長)

## 1. 構成員

## ◇センター長

片桐 岳信 (KATAGIRI, Takenobu) : センター長 (任期: R7.7.31)

## ◇副センター長

小谷 典弘 (KOTANI, Norihiro) : 副センター長 (任期: R7.7.31)

## ◇部門長 (医学研究センター運営会議規則第3条2号構成員)

海老原康博 (EBIHARA, Yasuhiro) : 研究主任部門 (任期: R7.3.31)

※片桐 岳信 (KATAGIRI, Takenobu) : 共同利用施設運営部門 (任期: R7.3.31)

※小谷 典弘 (KOTANI, Norihiro) : 研究支援管理部門 (任期: R7.3.31)

三谷幸之介 (MITANI, Kohnosuke) : 安全管理部門 (任期: R7.3.31)

三輪 尚史 (MIWA, Naofumi) : フェローシップ部門 (任期: R7.3.31)

椎橋実智男 (SHIIBASHI, Michio) : 研究評価部門 (任期: R7.3.31)

## ◇副部門長 (医学研究センター運営会議規則第3条2号構成員)

百瀬 修二 (MOMOSE, Shuji) : 研究主任部門 (任期: R7.3.31)

下岡 聡行 (SHIMOOKA, Toshiyuki) : 研究主任部門 (任期: R7.3.31)

横田 和浩 (YOKOTA, Kazuhiro) : 研究主任部門 (任期: R7.3.31)

横尾 友隆 (YOKOO, Tomotaka) : 共同利用施設運営部門 (任期: R7.3.31)

堀内 大 (HORIUCHI, Yutaka) (任期: R7.3.31)

※三谷幸之介 (MITANI, Kohnosuke) : 安全管理部門 (DNA分野) (任期: R7.3.31)

米田 竜馬 (YONEDA, Ryoma) : 安全管理部門 (DNA分野) (任期: R7.3.31)

村上 孝 (MURAKAMI, Takashi) : 安全管理部門 (感染分野) (任期: R7.3.31)

奥田 晶彦 (OKUDA, Akihiko) : 安全管理部門 (薬物・廃液等環境分野) (任期: R7.3.31)

森 隆 (MORI, Takashi) : 安全管理部門 (動物分野) (任期: R7.3.31)

西本 正純 (NISHIMOTO, Masazumi) : 安全管理部門 (RI分野) (任期: R7.3.31)

徳元 康人 (TOKUMOTO, Yasuto) : 研究評価部門 (任期: R7.3.31)

## ◇ランチ長 (医学研究センター運営会議規則第3条3号構成員)

※小谷 典弘 (KOTANI, Norihiro) : 毛呂山ランチ担当 (任期: R7.3.31)

山本 晃士 (YAMAMOTO, Koji) : 総合医療センターランチ担当 (任期: R7.3.31)

※海老原康博 (EBIHARA, Yasuhiro) : 国際医療センターランチ担当 (任期: R7.3.31)

※下岡 聡行 (SHIMOOKA, Toshiyuki) : 保健医療学部ランチ担当 (任期: R7.3.31)

※は重複構成員…計18名

## ◇オブザーバー

竹内 勤 (TAKEUCHI, Tsutomu) : 学長

森 茂久 (MORI, Shigehisa) : 副学長, 医学部長

高橋 健夫 (TAKAHASHI, Takeo) : 副学長

千本松孝明 (SENBONMATSU, Takaaki) : リサーチアドミニストレーションセンター センター長

菅原 哲雄 (SUGAHARA, Tetsuo) : リサーチアドミニストレーションセンター 講師

佐藤 勝茂 (SATO, Katsushige) : リサーチアドミニストレーションセンター 課長

町田 早苗 (MACHIDA, Sanae) : 医学研究センター 講師

別所 和博 (BESSHO, Kazuhiro) : 医学研究センター 助教

福田枝里子 (FUKUDA, Eriko) : 医学研究センター 助手

## ◇事務局

下田 裕子 (SHIMODA, Yuko) : 大学事務部 医学部事務室 庶務課 課長

佐國 真紀 (SAKUNI, Maki) : 大学事務部 医学部事務室 庶務課

## 2. 目的・目標

医学研究センターは、学校法人埼玉医科大学医学研究センター規定第2条に則り、本学の医学研究を円滑かつ効果的に行い、教育研究上の目的を達成するための基盤整備を図るとともに、当該研究活動に必要な企画立案、管理運営その他の研究支援を統括・推進し、もって本学の研究活動の質的向上、および研究成果の社会への還元に資することを目的とする。

今年度も、本学の研究活動の向上を目指して、全学的なソフト面とハード面での支援を充実させる。また、リサーチアドミニストレーションセンターと協力し、公的競争的研究資金として科研費（文部科学省、日本学術振興会）の申請支援も充実させる。

医学研究センターの目的を達成するために、以下に示す6つの部門で構成され、各部門が異なる視点から本学の研究を支援する。

- 1) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 4) 安全管理部門：DNA、感染、薬物、環境、動物、RIなど、研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

各部門内で会議を適宜開催し、毎月1回、全キャンパス両学部から選出された構成員からなる医学研究センター運営会議を開催して、全体の活動を共有している。運営会議の内容は、教員代表者会議と保健医療学部教授会で報告され、本学全体に共有される。

## 3. 活動実績

令和6年度は、各部門において以下のような活動を行った（それぞれの詳細は、各部門の活動報告を参照）。

- 1) 研究主任部門：各基本学科の研究主任を介した連絡体制の構築を検討した。第28回学内グラント成果発表会を令和6年7月26日に開催し、第29回学内グラント成果発表会を令和7年3月28日に開催した。
- 2) 共同利用施設運営部門：共同利用施設運営部門の構成員を見直し、全学的な意見を議論できる体制を整えた。共同利用実験施設利用内規を改正し、管理・運営と庶務の担当を明確化した。原則的に毎月、共同利用施設運営部門会議、および医学部中央研究施設運営会議をそれぞれ開催し、研究機器・備品の整備を行った。
- 3) 研究支援管理部門：リサーチアドミニストレーションセンターと共に、科研費アドバイザー制度を始めとする科研費申請支援を検討・実施した。論文剽窃検知ソフト iThenticate の運用・管理を担当した。グラント選考委員会が令和6年4月25日に開催した令和6年度学内グラント選考委員会において、各課題の集計等を担当した。
- 4) 安全管理部門：部門内の5分野でそれぞれ活動を行った。DNA分野では、組換えDNA使用実験に関する審査・承認を行い、講習会を実施した。感染分野は、病原体等取扱申請書を審議し、BSL2とBSL3実験施設の査察を行った。また、病原性微生物の保有状況、BSL2、BSL3の保有状況を確認し、文部科学省へ報告した。薬物・廃液等環境分野では、令和6年度研究用麻薬・向精神薬に関する調査・報告を行うと共に、実験廃液と廃棄物の処分を専門業者に依頼した。動物分野では、本学動物実験委員会のあり方の見直しを行うと共に、動物実験計画書の審査・承認を行った。RI分野では、令和6年度の新規および継続RI取扱希望者を対象とした教育訓練を実施すると共に、令和6年12月24日に実施された原子力規制庁による立入検査に対応した。
- 5) フェローシップ部門：2025年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金を募集・選考し、その結果を上程した。

- 6) 研究評価部門：研究業績データベースシステムを管理・運用し、学内の各部署への情報提供、新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）とのデータ交換を行った。令和7年3月現在、本システムには医学部と保健医療学部をあわせて1,442名の研究者が登録されている。

#### 4. 自己評価と次年度計画

##### 4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価結果

令和6年度も、本学の研究活動の向上と研究成果の社会への還元を目指して、全学的なソフト面とハード面での研究支援を概ね計画通り実施できた。しかし、一部はさらなる検討、対応が必要であることが明らかとなった。

全学的な研究連絡の目的で、研究主任部門からメーリングリストを介して研究主任宛に一斉通知を行った。しかし、研究主任に連絡が届いていない例が発生し、管理するメーリングリストの不備が考えられた。計画通り、学内グラント受賞者による成果発表会を2回開催した。共同で利用する研究機器や設備、実験室等の管理・運営体制を検討し、内規の改正を含めた研究環境の改善に取り組んだ。「科研費アドバイザー制度」についてアンケートを実施し、申請者とアドバイザー担当者のどちらにも好評であることを確認した。しかし、令和7年2月末日に発表された令和7年度科研費の採択件数、採択率、採択金額が大幅に低下した。計画の通り、研究計画の安全管理に関して審議・承認を行った。急遽実施された原子力規制庁の立入検査にも適切に対応した。計画通り、埼玉医科大学私費外国人留学生奨学金候補者を選考したが、一名は辞退となった。計画通り、研究業績データベースを管理・運用し、人事考課やresearchmapを介した研究評価に利用できた。

##### 4-2. 今年度の自己点検・評価結果に基づく改善計画

令和7年度も、本学の研究活動を促進するために、全学的なソフト面とハード面での研究支援に取り組む。特に重点的に取り組む課題として、以下を計画する。(1) 研究主任部門の運営と研究主任との連絡体制の再検討、(2) 共同利用施設に関する事務組織も含めた検討体制の構築、(3) 動物実験の外部検証に向けた準備、(4) 科研費アドバイザー制度の充実を含めた科研費等の公的競争的研究費の分析と対策検討、(5) 学内グラント成果発表会のあり方の再検討、(6) 研究業績データベースの充実。また、本学両学部教員による埼玉医科大学医学会とも連携し、本学全体の研究力向上を目指す。